

技術標準書

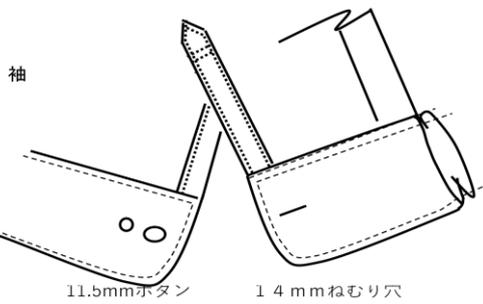
ブラウス

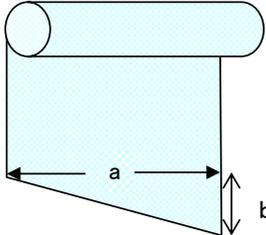
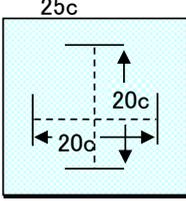
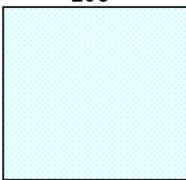
目次

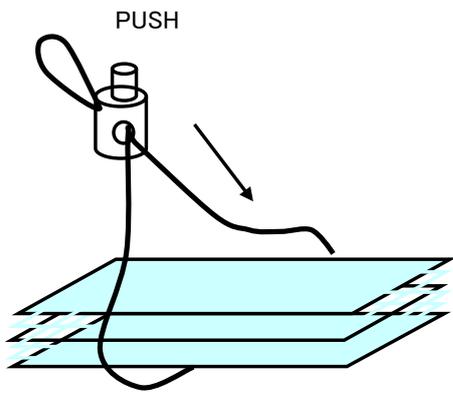
内容	ページ
1, 生地チェック方法	4
2, 裁断方法	5
3, 芯地接着	7
4, 縫製準備	8
5, 縫製 袖	9
衿	13
前身頃	15
背中	18
肩入れ	20
袖付け	22
脇、袖縫い	24
衿付け	27
裾折り	29
カフス付け	31

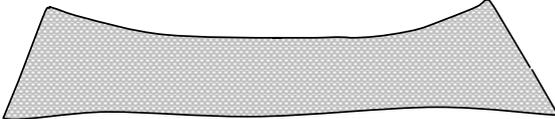
デザイン

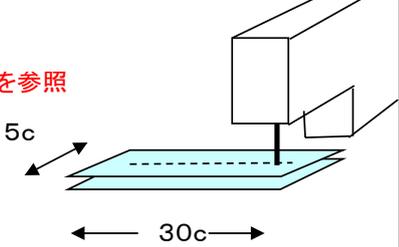


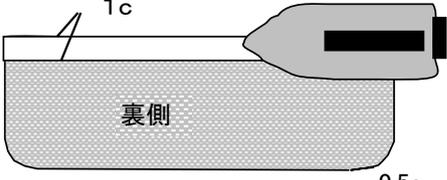
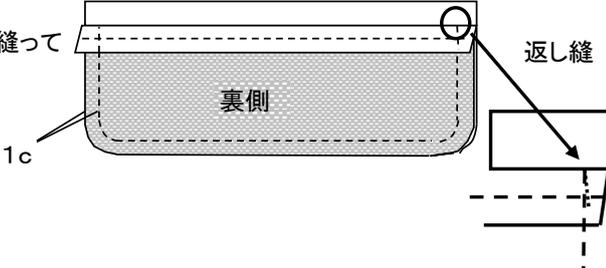
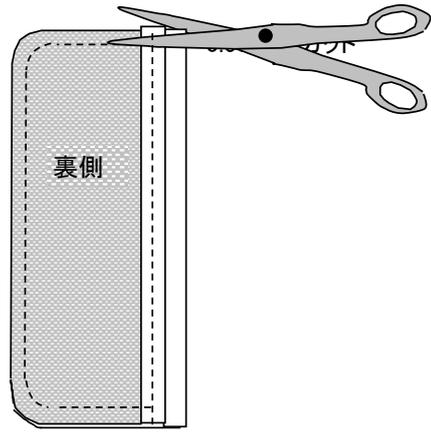
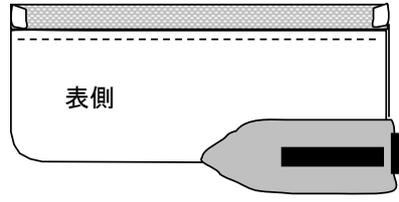
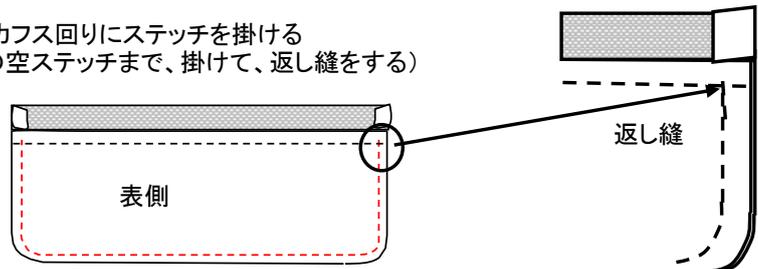


制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード									
改定年月日												
			ブラウス									
工程：作業名		生地チェック										
急所：注意事項		生地の斜行、収縮、目付け、貫通力を測定して、スポンジング有無、パターン修正、アイロン温度、ミシン条件を決定する。 生地を正確にチェックしないと、完成後 キャンセルなどの重大事故に繋がる危険がある。										
1、斜行のチェック	生地 of 反物の端を横方向に切り裂き、斜行度を計測する。 以下の判定の基づき、対応する。	<table border="1"> <tr> <th>斜行度</th> <th>斜行度 = b/a</th> </tr> <tr> <td>3%以内</td> <td>重視地目の決定</td> </tr> <tr> <td>3%以上</td> <td>生地整理、可・不可</td> </tr> <tr> <td>7%以上</td> <td>返品(MDに連絡)</td> </tr> </table>	斜行度	斜行度 = b/a	3%以内	重視地目の決定	3%以上	生地整理、可・不可	7%以上	返品(MDに連絡)	 <p style="text-align: center;">横地の目</p>	
斜行度	斜行度 = b/a											
3%以内	重視地目の決定											
3%以上	生地整理、可・不可											
7%以上	返品(MDに連絡)											
2、収縮試験	生地を縦横25cにカットし、縦横20cに正確に印を入れて、下記の条件で収縮変化を読む	<table border="1"> <tr> <td>アイロン温度</td> <td>150℃</td> </tr> <tr> <td>スチーム</td> <td>15秒</td> </tr> <tr> <td>ベーキング</td> <td>15秒</td> </tr> <tr> <td>バキューム</td> <td>15秒</td> </tr> </table>	アイロン温度	150℃	スチーム	15秒	ベーキング	15秒	バキューム	15秒		
アイロン温度	150℃											
スチーム	15秒											
ベーキング	15秒											
バキューム	15秒											
	収縮率 3%以内の場合、パターン修正 収縮率 3%以上の場合、MDと相談(再整理orスポンジング)											
3、目付け	収縮試験の生地えを利用して、目付けを測定する。 デジタルはかりで重量を測り、面積で割って、目付けを算出する。 $\text{目付け} = Xg / \text{面積}(625) \times 10000$											
4、貫通力	デジタルはかりを利用して、針が生地を突き抜ける力を測定する。 (別紙、方法は簡便縫製条件設定マニュアルを参照)											

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
				ブラウス
工程：作業名		裁断		
急所：注意事項		生地特性を十分に認識してから、延反、裁断すること。 仕分けはテレコ、順番間違いが無いように注意すること		
<p>2、延反作業</p> <p>上記のマーキングより必要メーター数を確認して、両端の保持分+アルファを加味して、延反を行う。</p> <p>特に、注意しなければならないことは、絶対に引っ張って延反しないこと。その他、しわやねじれがないように注意する。</p> <p><注意点> 素材の特性によって、重ね枚数、中紙などの条件が異なるので、注意すること。 詳細は簡便縫製条件設定法を参照のこと。</p> <p>3、裁断</p> <p>手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ①延反した生地にCAD紙を置いて、ズレないように、ピンなどで止める。 ②クランプ(布押え)で布がずれないようにしっかり止めて、裁断機(立刃)で大裁ちする。 ③バンドナイフで、精密裁断する。(ズレないように注意して移動する) <p><注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ①CADの紙を置く時に、生地地の目、生地端を確認して、正しい位置に置くこと ②立刃式裁断機の研磨は十分に行うこと。 (特に、合織物は溶けて付着しやすい) <p>4、仕分け</p> <p>パーツ毎に、投入枚数(投入ロット)毎に、バンドルする。 ここで、生産管理上、ロット数は大変重要で、少ないほど、ロット違い、色違いの発生比率が減少し、完成時間も早くなるので、生産効率、品質管理に有効である。 理想は10人編成チームで5枚前後である。</p> <p>バンドル用のひもは残布を利用しているケースが多いが、理想から言うと、ワンブッシュ方式専用方式の方が、結わいたり解いたりする時間が早くなる。</p> <div style="text-align: center;">  <p>ワンブッシュ方式</p> </div>				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
			ブラウス	
工程：作業名		接着		
急所：注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ●指定された接着条件を必ず守ること。 ●必ず、同一生地で接着強度試験を行うこと。 ●接着という作業は温度、圧力など、機械の性能によるので常にメンテナンスに注意を払わねばならない。 		
<p>1、接着作業</p> <p>手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定された接着条件(温度、圧力、時間)に合致す。 ②始業前に電源を入れ、15～20分後、温度は指定温度に達していることを確認すること (指定温度に達すると、サーモスタットのON. OFFが点滅している) ③製品と同じ生地で接着試験を行い、剥離強度を計測する。 指定された強度が出ない場合は機械を点検して、不具合がないか確認する。その他、クラーの角度や、接着芯のチェックなどして、問題がなければ、発注元に相談して、指示を待つ。 ④表地の裏側を上にして、置き、その上に、接着芯を置く。 このときの<注意事項> <ul style="list-style-type: none"> ●接着芯を引っ張らない(後で詰まる) ●しわをいれない(アタリになる) ●ゴミを入れない(アタリになる) ●はみ出さない ●地の目を通す ⑤接着後、最低でも3時間は放置する。(ハイグラルの大きい素材は1日放置) ⑥終業後、ベルトの清掃を十分に行う。 <p style="text-align: center;">カフスの接着</p>  <p style="text-align: center;">衿芯の接着</p>  <p style="text-align: center;">台芯の接着 (固めタイプを使用)</p>  <p style="text-align: center;">前立の接着</p>  <p style="text-align: center;">上ボロ、下ボロ</p> 				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード																			
改定年月日																						
			ブラウス																			
工程：作業名		縫製準備																				
		サンプル班は量産チームのために、正確な縫製条件を選定すること ゲージは品質安定のために重要な要素であるため、慎重に作成すること																				
1、縫製条件の決定		<p>生地を目付けと貫通力の結果から、縫製条件を決定する。 別紙、縫製条件データベースを参照 試縫いを行う(2枚縦方向約30c)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>試縫いの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①縫いバランス ②パッカリング ③縫いズレ ④縫目笑い <p>上記①～④で問題があれば、再度調整して、縫製条件を設定する。</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  </div> </div>																				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">条件</th> <th style="width: 50%;">適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>糸の番手</td><td></td></tr> <tr><td>針の番手</td><td></td></tr> <tr><td>上糸張力</td><td></td></tr> <tr><td>下糸張力</td><td></td></tr> <tr><td>針穴</td><td></td></tr> <tr><td>送り歯</td><td></td></tr> <tr><td>押え圧力</td><td></td></tr> <tr><td>押え金の種類</td><td></td></tr> </tbody> </table>			条件	適用	糸の番手		針の番手		上糸張力		下糸張力		針穴		送り歯		押え圧力		押え金の種類	
条件	適用																					
糸の番手																						
針の番手																						
上糸張力																						
下糸張力																						
針穴																						
送り歯																						
押え圧力																						
押え金の種類																						
2、ゲージの作成		<p>パターンから、ゲージ(線引き用、印位置用)を作成する。</p> <p>主なゲージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダーツ印入れ ●ダーツ止まり縫い用ゲージ ●ポケット位置 ●フロントカーブ ●前立カーブ ●衿丸みカーブ ●アイロン折りゲージ 																				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
			ブラウス	
工程：作業名	縫製 袖工程			
急所：注意事項	カフスは左右の丸みが同一になるように注意すること			
1、カフス作り				
①カフスの表側をアイロンで1c折る				
② 折り山から0.5cの空ステッチを掛ける。				
③カフスの表地と裏カフスの中表にして1cで地縫いする (アイロン折り返し上部まで、縫って返し縫を行う)				
④ 縫代を0.5cカットする。 (縫代を深くカットすると、パンクの原因になるので、細心の注意を図る事)				
⑤表にひっくり返して、 (カーブの丸みがきれいになるように目打ちで整える) アイロンで整える				
⑥ 0.5cでカフス回りにステッチを掛ける (0.5cの空ステッチまで、掛けて、返し縫をする)				

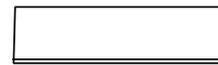
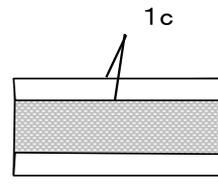
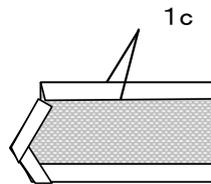
制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				

工程 : 作業名	縫製 袖作り
急所: 注意事項	パーツだからと言って、適当に行うのではなく、パーツこそ正確に作業を行うこと(いい加減に行うと、後で苦勞する)

1、剣ボロの作り ①上ボロ、下ボロとも
1cでアイロンで折る

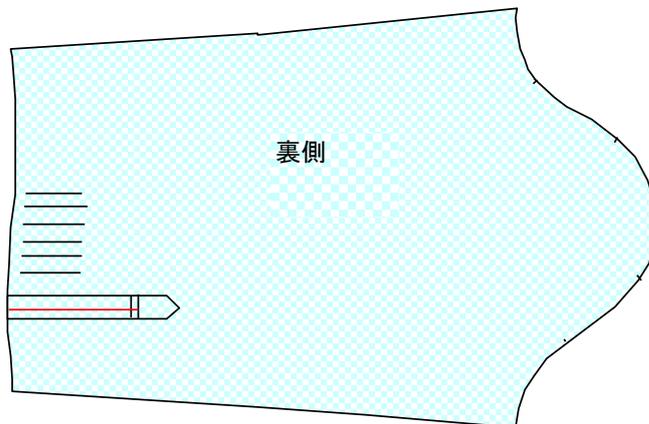


②さらに、両端が毛抜き合わせ
になるように、中央より
折り曲げる。

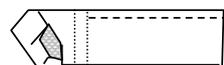


2、剣ボロ付け

① 袖の剣ボロ明きのスリット
を入れる



② 上ボロに折りたたみ部分にコバステッチを入れる



コバステッチ

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				

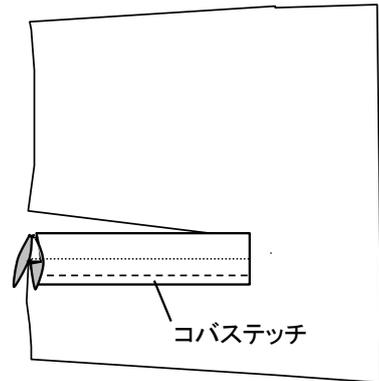
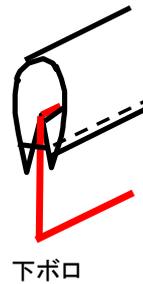
工程 : 作業名	縫製 袖作り
急所: 注意事項	

2、剣ボロ付け ① 下ボロ付け

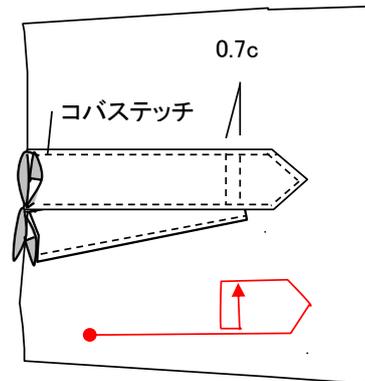
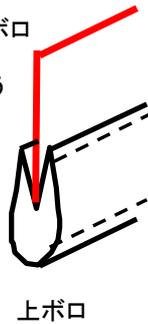
袖口から見た図

表側から見た図

袖口の切り込みの脇側に
下ボロを1c差し込んで
コバステッチで縫う



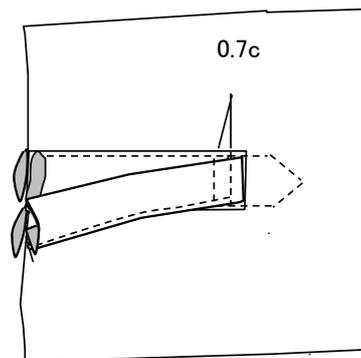
② 上ボロ付け
反対側の切り込みに上ボロ
を1c差し込んで
回りをコバステッチで縫う
(右図のように、一筆
書きで行う)



③ 下ボロと上ボロを
重ねて、平行に
0.7cステッチで止める

上ボロ

裏から見た図

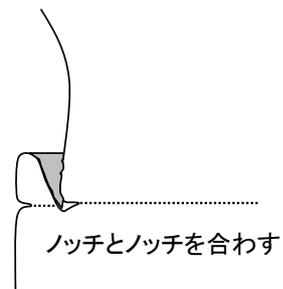
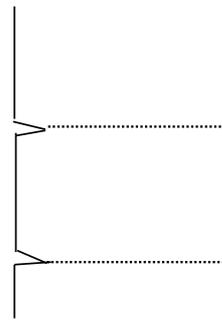
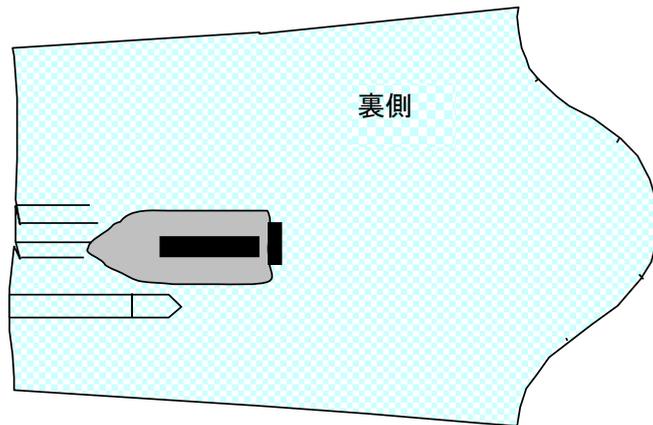


制定年月日		技 術 標 準	工程コード	
改定年月日				

工程 : 作業名	縫製 袖作り
急所: 注意事項	

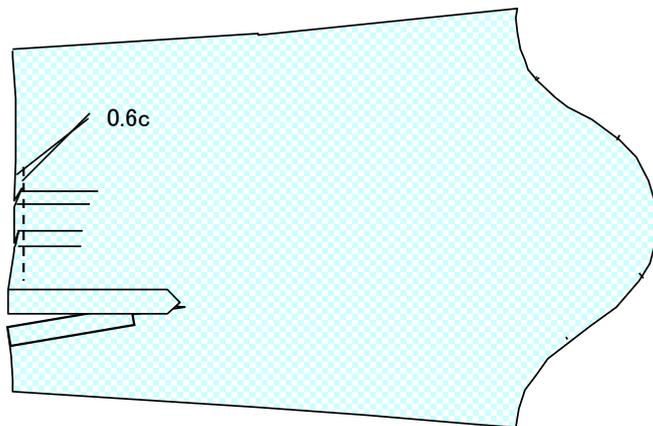
3、袖タック折りアイロン

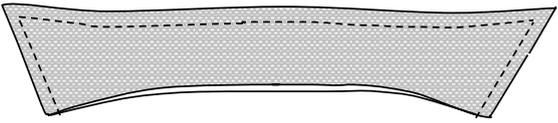
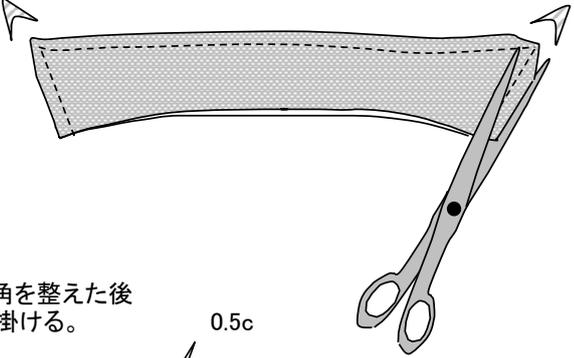
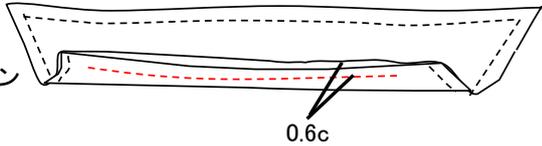
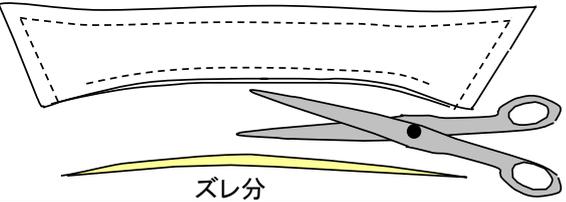
タックを手で畳んで、
アイロンでセットする。
(ノッチできちんと合わす)

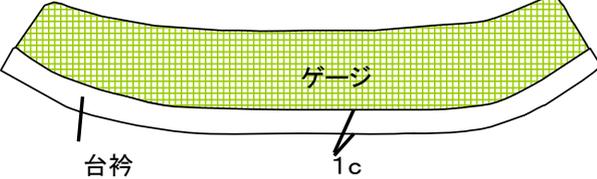
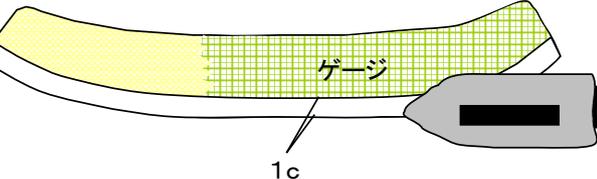
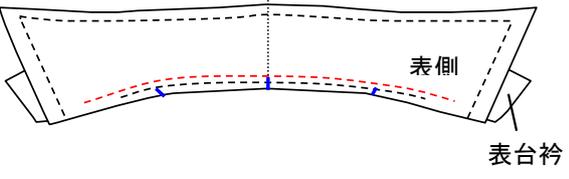
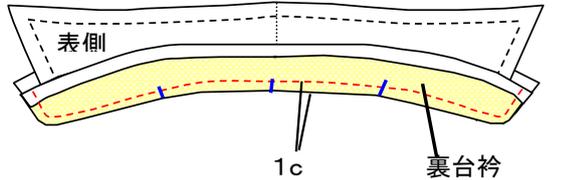
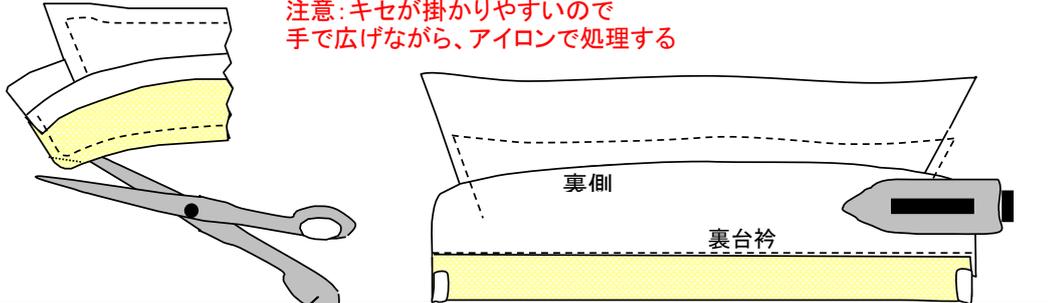


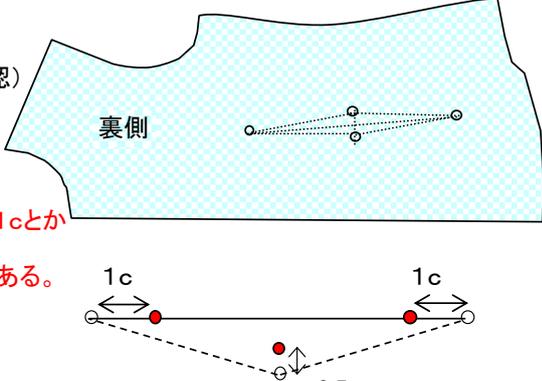
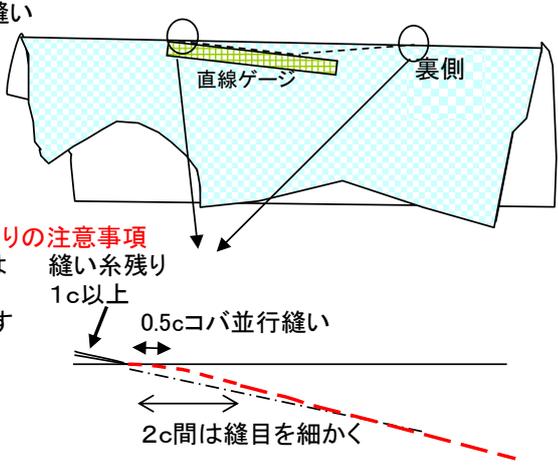
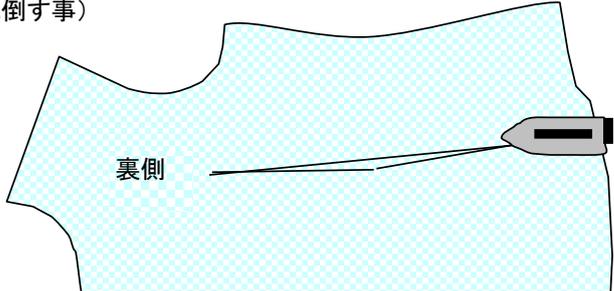
4、タック押え仮止め縫い

0.6c幅でタックを押える



制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
			ブラウス	
工程 : 作業名	縫製 衿作り			
急所: 注意事項	衿の左右の幅が同一になるように注意すること			
<p>1、地衿縫い ①2枚の衿を中表にして、1cmで地縫いする。</p>  <p>②衿先の縫代の余分をカットする。 (最低0.2cは残す事) 縫代を0.5cにカットする。</p>  <p>③表に戻して、アイロンで角を整えた後 周囲を0.5cでステッチを掛ける。</p>  <p>④出来上がった衿を外表になるように 縦に二つ折りすると、 裁ち端が生地の厚み分 ズれる。 この状態で0.6mmの押えミシン を掛ける。</p>  <p>⑤裁ち端のズレた分だけカットする。</p> 				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
			ブラウス	
工程：作業名		縫製		
急所：注意事項				
<p>1、台衿作り</p> <p>① 台衿端折ゲージの作成 台衿パターンより 折り分1cを控えた ゲージを作成する。</p>  <p>② 裏台衿の下端をアイロン で1cで折る 尚、大事な折線なので ゲージを使用することが 望ましい</p> <p>後で戻らないように、 強めにセットする。</p>  <p>③ 表台衿を中表にして、 衿を0.7cで仮止め縫い をする。 ノッチを確実に合わす</p>  <p>④ さらに、裏台衿と衿を 1cで地縫いする。 ノッチを確実に合わす</p>  <p>⑤ 縫代を5mmカットし アイロンで表に返す</p> <p>注意：キセが掛かりやすいので 手で広げながら、アイロンで処理する</p> 				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
			ブラウス	
工程：作業名		縫製 前身頃		
急所：注意事項		ダーツの縫い曲がり、縫いズレ、パッカリング アイロンのアタリ		
1、ダーツ縫い				
<p>① ダーツ止まりに印を入れる チャコペンシルで裏側に入れる (染みにならないか、残布で確認)</p> <p style="color: red;">工場内ルールとして、 印が表から見えないように (隠れるように) ダーツ止まり位置から、内側に1cとか 0.5cとかを仮目印として ダーツ止まり位置にする方法もある。</p> 				
<p>② 印に合わせて、生地を二つに 折り、3点を結ぶように、地縫い する。 品質安定のために、 直線ゲージを使用する 必要もある。</p> <p style="color: red;">ダーツ縫いの縫い始め終わりの注意事項</p> <p>縫い始め終わりの2cm間は 1mmくらい細かくする 縫い端糸は1cm以上程残す (ほつれ紡糸のため)</p> <p>縫い糸残り 1c以上</p> <p>0.5cコバ並行縫い</p> <p>2c間は縫目を細かく</p> 				
2、ダーツ割り				
<p>① ダーツの縫代が前側に向くように アイロンで倒す。 (縫目を完全に倒す事)</p> 				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程：作業名	縫製 前身頃			
急所：注意事項	前立の両端のステッチは、商品の顔にもなる部分であるので、曲がりやパツカリングが無いように注意深く縫う事			

3、前立付け

①前立折りアイロン

折りゲージを作成する。

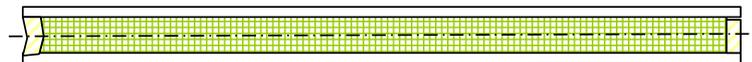
(ゲージの材質は通気性があり、薄く、張りがある物がベターである。) 1c



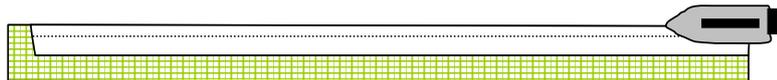
前立は商品価値を決める大事な要素になるので、アイロンで正確に折る事。



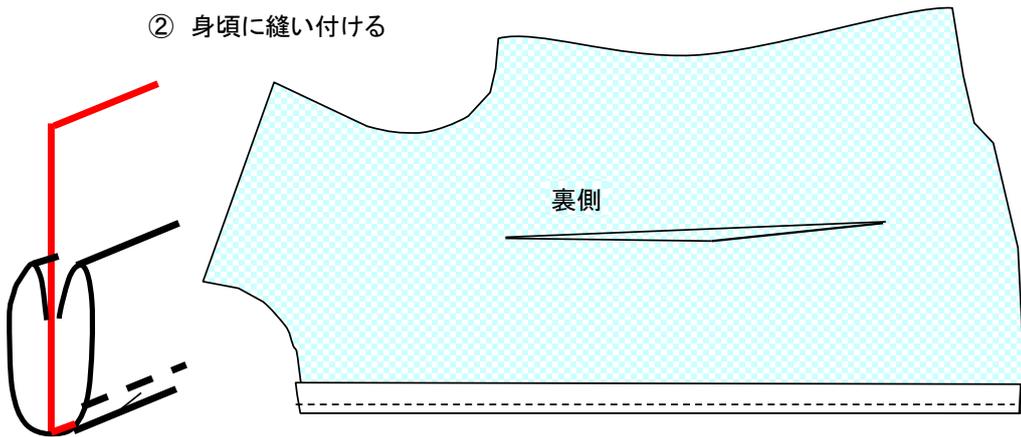
さらに、中央から、二つに折る。



正確に折るために、ゲージを利用する。



② 身頃に縫い付ける

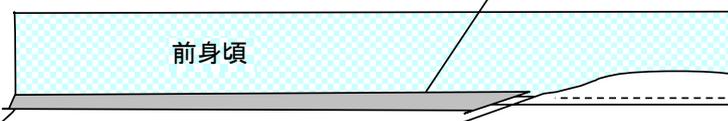


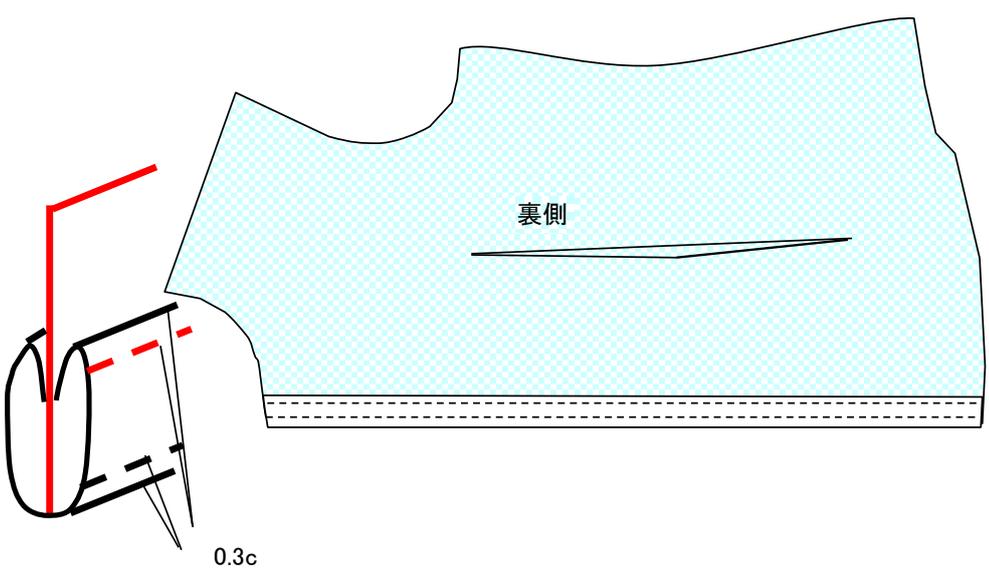
(1)前立を奥まで差し込む

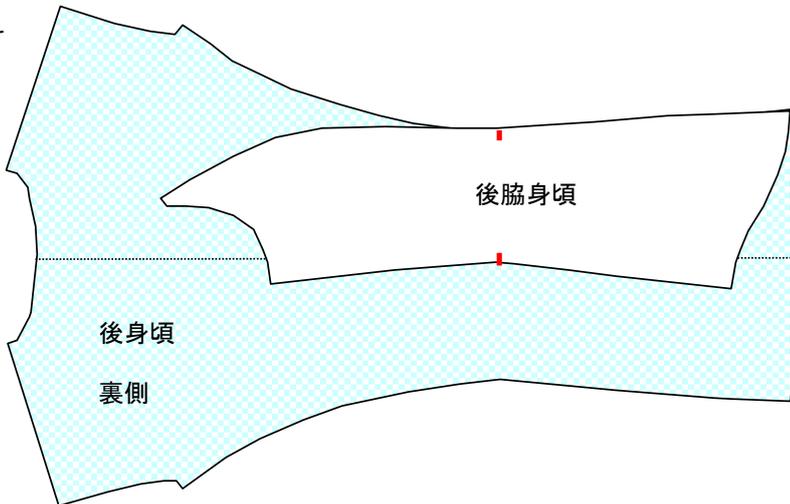
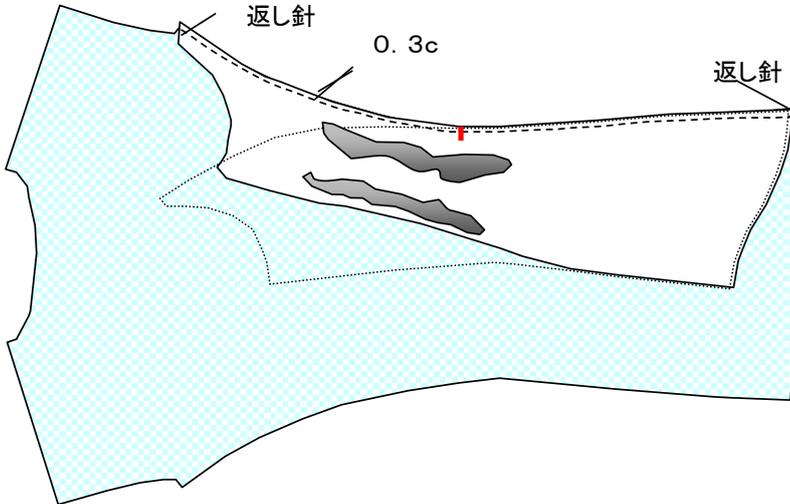
(2)前端を0.3cでステッチを掛ける

注意 前立の中に前身頃が正確に、入っているか確認できないので
10c置きにめくりながら確認しながら縫製していく。

端がきちんと接触しているか



制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名		縫製 前身頃		
急所:注意事項				
(3)奥側にも0.3cのステッチを掛ける				
 <p>The diagram shows a light blue garment piece with a checkered pattern, labeled '裏側' (Reverse side). To the left, a red thread is shown being sewn into a hem. A label '0.3c' is placed below the thread diagram. The garment piece has a curved neckline and a hemmed bottom edge with a dashed line indicating the hem allowance.</p>				

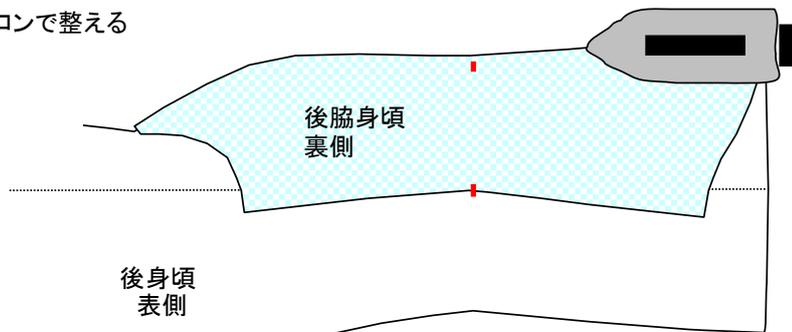
制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程：作業名		縫製 後身頃		
急所：注意事項				
<p>1、後脇身頃の縫い付け (袋縫い)</p>  <p style="color: red;">押え金を0.3cに変更する。 後身頃と脇身頃を中表に合わせ アウトカーブ同士になるので、背中のカーブに後脇身頃を添わせるように、 端から0.3cで地縫いする。 ノッチが完全に合わず事</p> 				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				

工程 : 作業名	縫製 後身頃
----------	--------

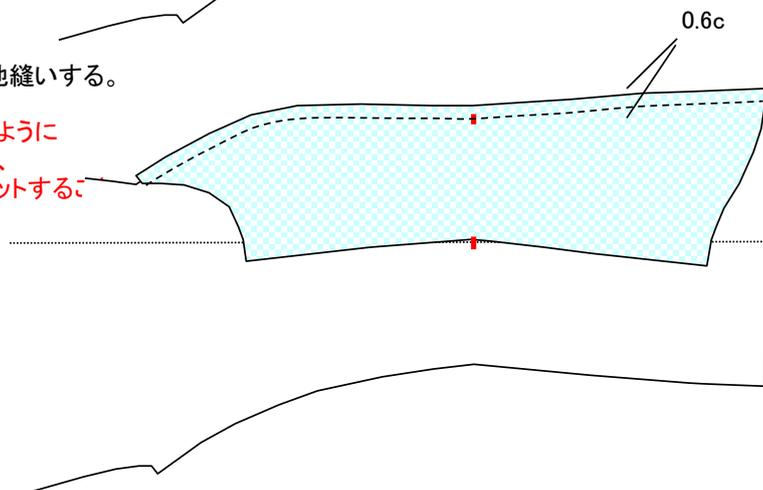
急所: 注意事項	
----------	--

折り返して、アイロンで整える

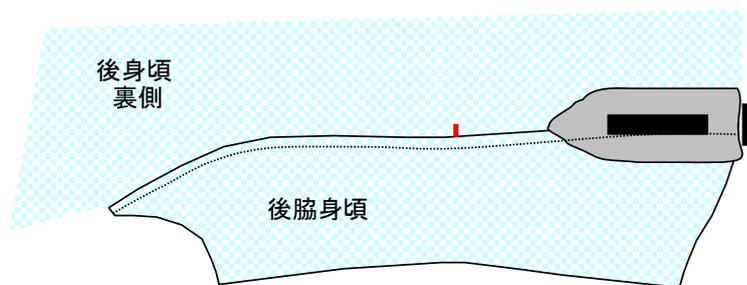


端から0.6cで地縫いする。

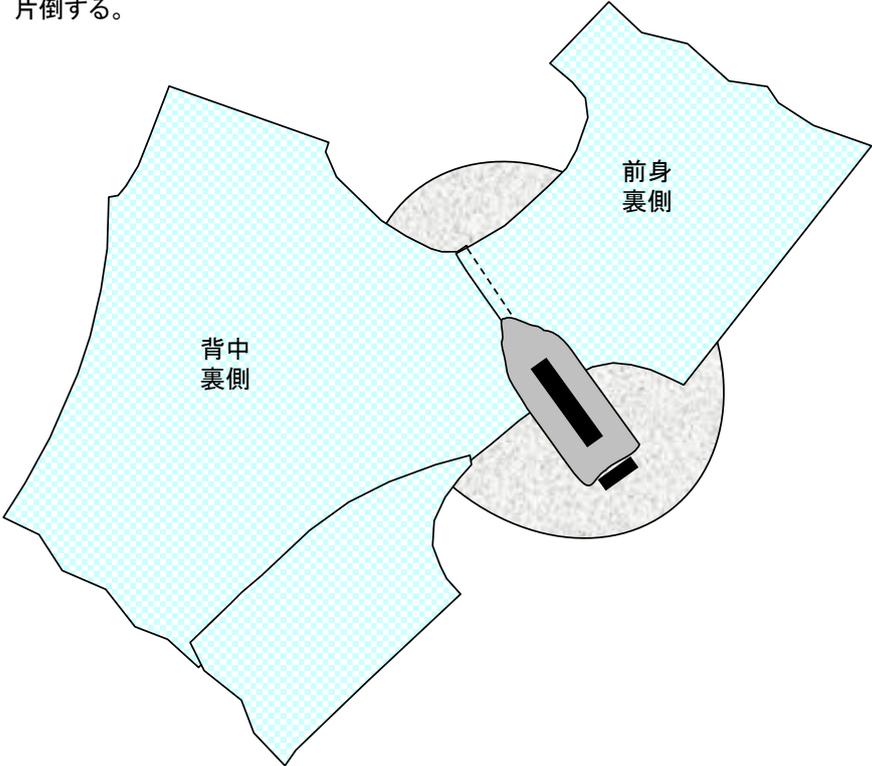
注意
布端が出ないように
地縫いの前に、
ほつれ糸はカットする。

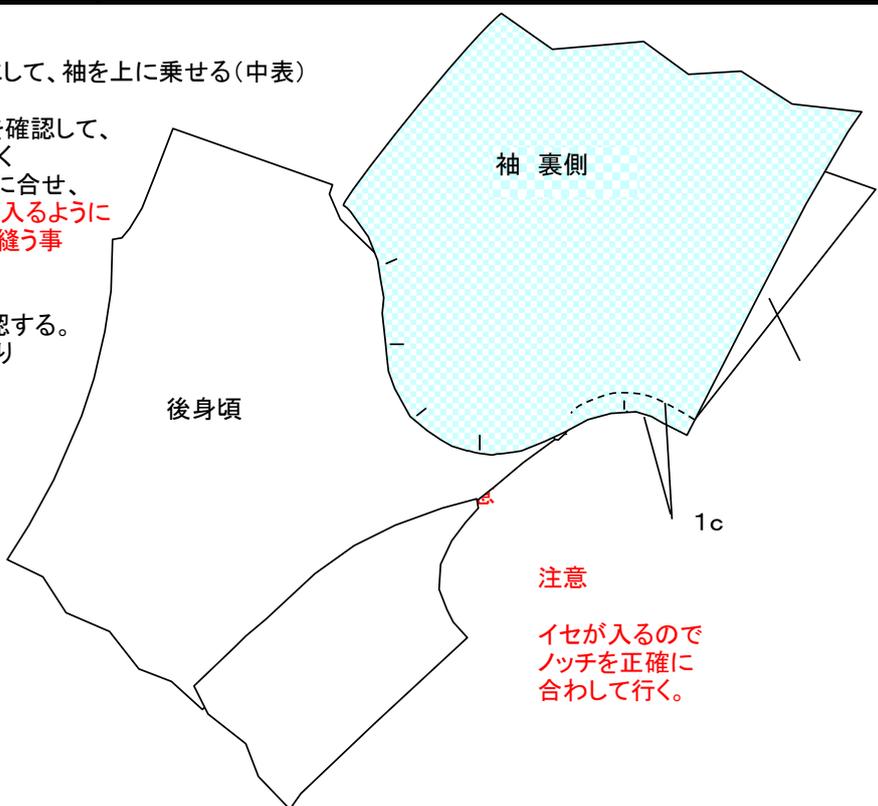


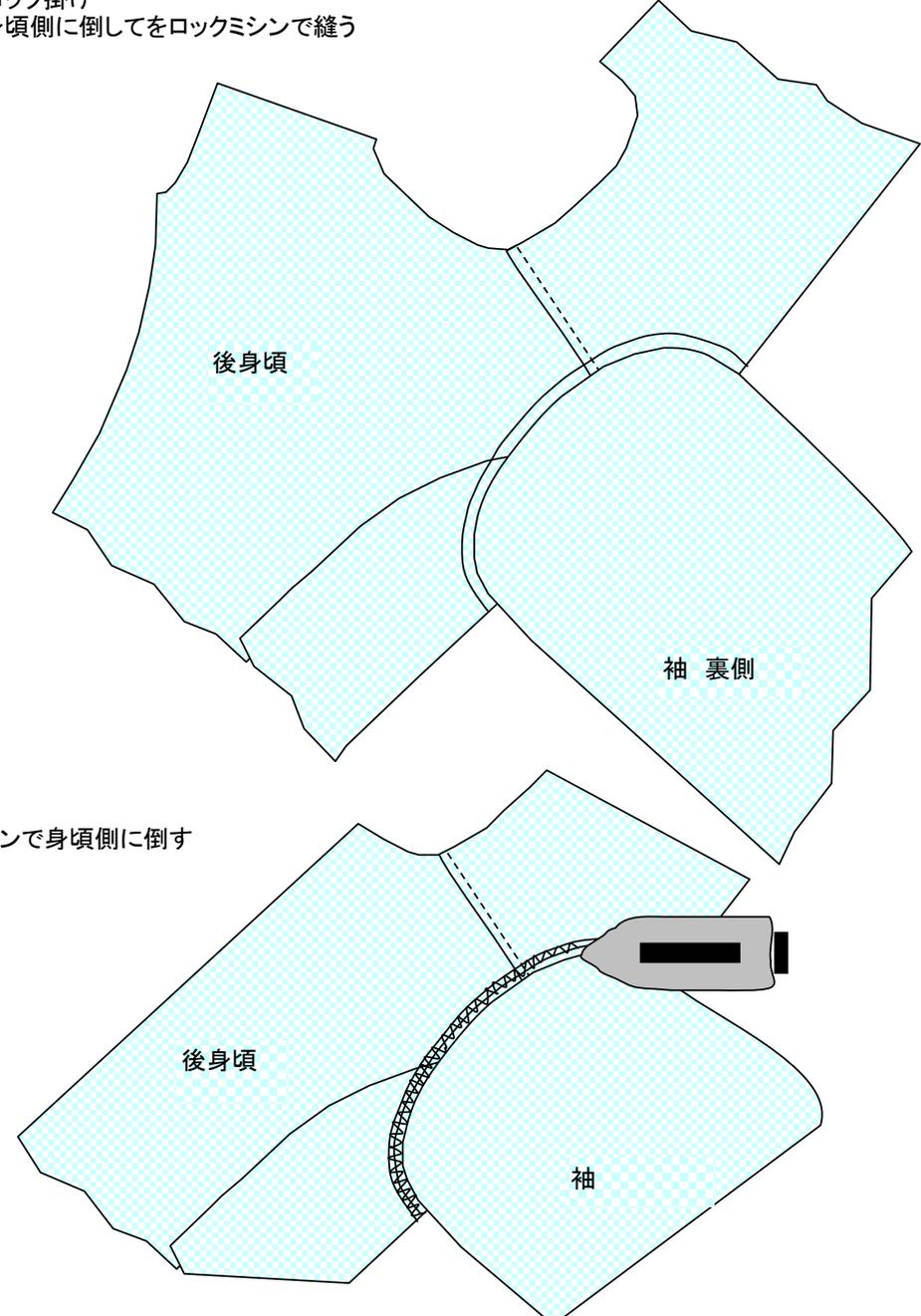
表に戻して、袋地縫いをアイロンで整える

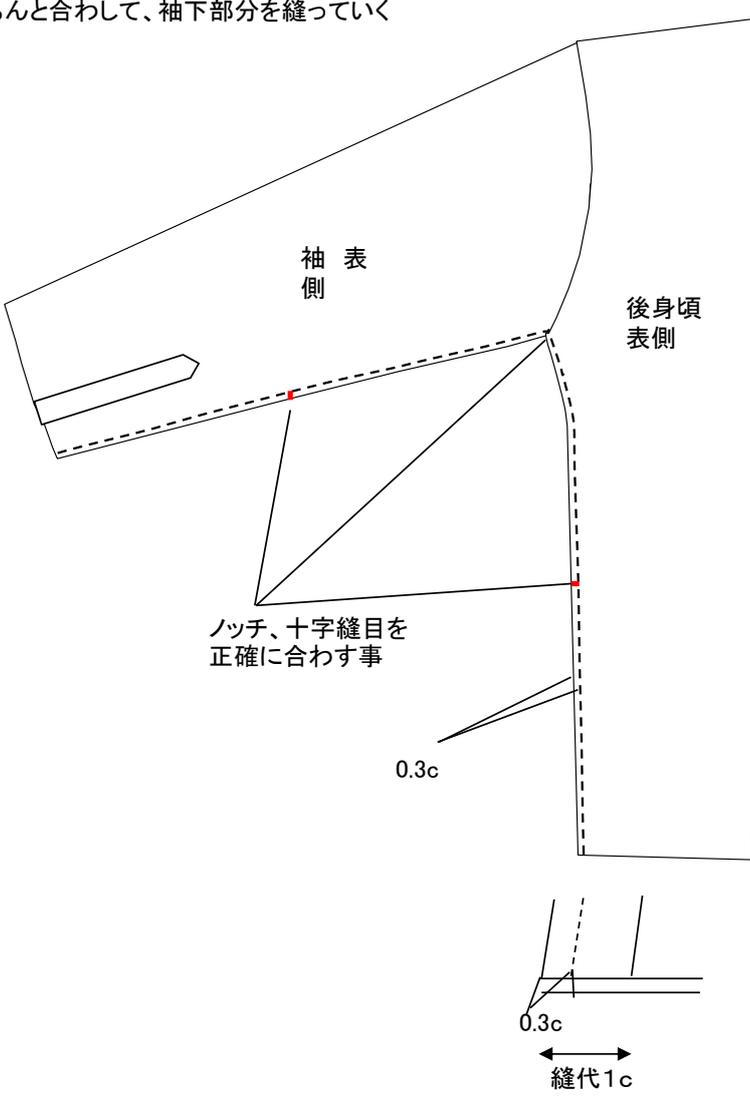


制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程：作業名		縫製 肩入れ		
急所：注意事項				
<p>1、肩入れ (袋縫い)</p> <p>①後身頃を下にして、身頃を乗せる (外表に合う) 肩を伸ばさなさないように 端から3mmで縫う</p> <p>返し針</p> <p>0.3c</p> <p>返し針</p> <p>後身頃</p> <p>前身頃 表側</p> <p>0.3c</p> <p>縫代 1.0c</p> <p>②裏に返して、アイロンで整える。</p> <p>③ 端から06mmで地縫いする 返し針を入れる 注意 布端が出ないように 地縫いの前に、ほつれ糸はカットすること</p> <p>0.6c</p> <p>④ 表に折り返して アイロンで整える</p>				

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名		縫製 肩入れ		
急所:注意事項				
<p>1、肩入れ</p> <p>② 肩地縫いをアイロンで背中側に片倒する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>背中裏側</p> <p>前身裏側</p> </div>				

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名	縫製 袖付け			
急所: 注意事項	ノッチと縫代を意識して正確に縫う			
<p>1、袖付け</p> <p>①身頃を下にして、袖を上に乗せる(中表)</p> <p>②右左の袖を確認して、1cで縫っていく ノッチは確実に合せ、イセが均等に入るように注意しながら縫う事</p> <p>③表に返し、縫目を確認する。 ビリ、曲がりがないか</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>後身頃</p> <p>袖 裏側</p> <p>1c</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>注意</p> <p>イセが入るので ノッチを正確に 合わせて行く。</p> </div> </div>				

制定年月日	<h1>技術標準</h1>	工程コード
改定年月日		
工程：作業名	縫製 袖付け	
急所：注意事項		
<p>2、袖縫代ロック掛け 縫代後身頃側に倒してをロックミシンで縫う</p>  <p>アイロンで身頃側に倒す</p>		

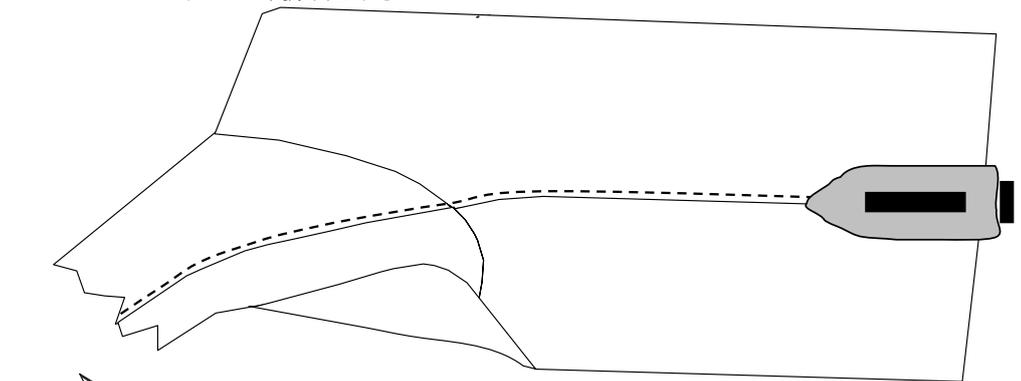
制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名	縫製 脇、袖時縫い			
急所: 注意事項	ノッチに注意する。			
<p>1、脇縫い、袖縫い(袋縫い) 0.3cで脇、から縫って、ノッチ、脇下十字縫目をきちんと合わせて、袖下部分を縫っていく</p>  <p style="text-align: center;">ノッチ、十字縫目を正確に合わす事</p> <p style="text-align: center;">0.3c</p> <p style="text-align: center;">0.3c</p> <p style="text-align: center;">縫代1c</p> <p style="text-align: center;"><断面図></p>				

制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				

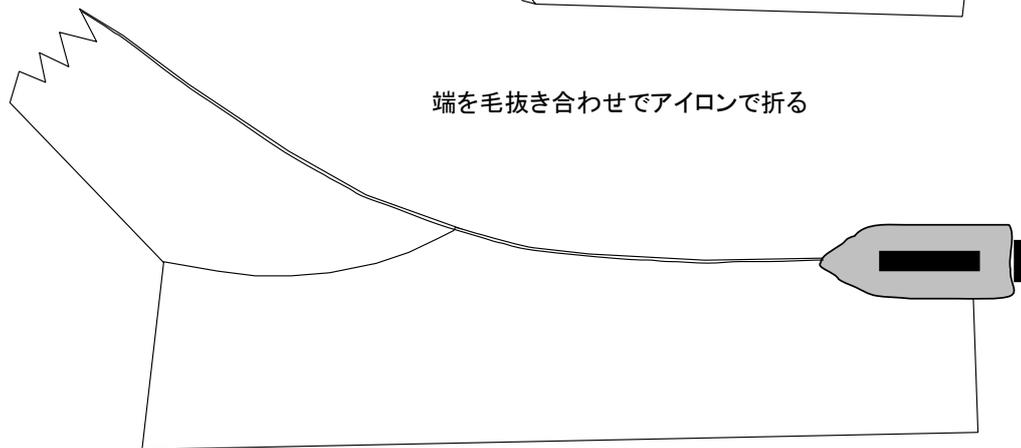
工程 : 作業名	縫製 脇、袖縫い
----------	----------

急所: 注意事項	
----------	--

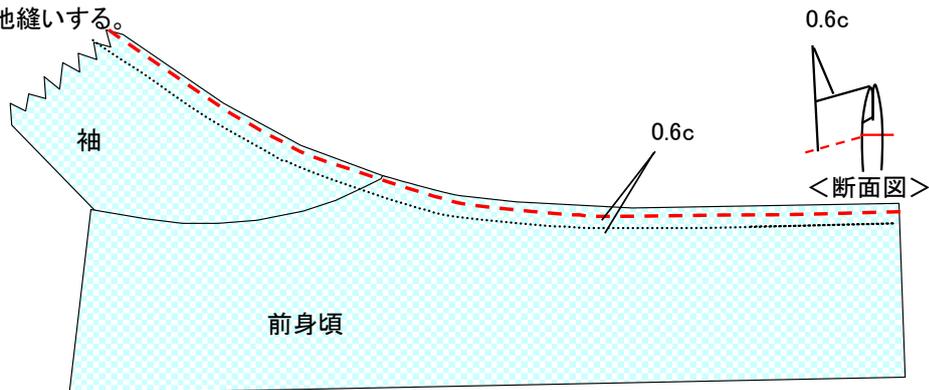
2、割アイロン 折り目をきちんと返すために、縫目に沿ってアイロンで、折り曲げる

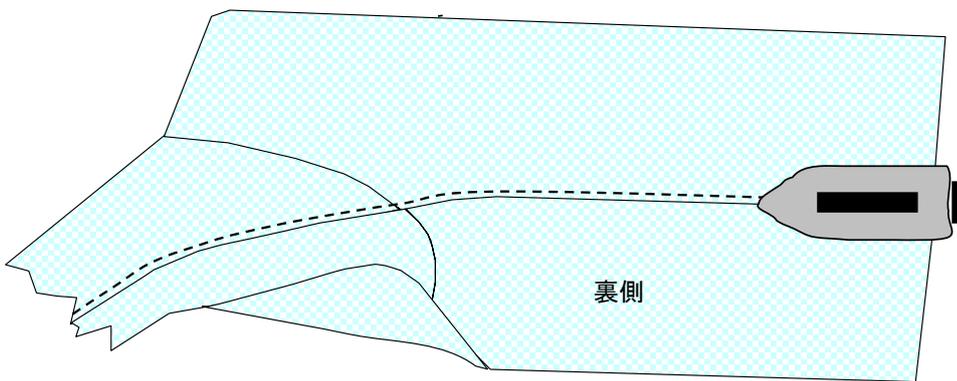


端を毛抜き合わせでアイロンで折る



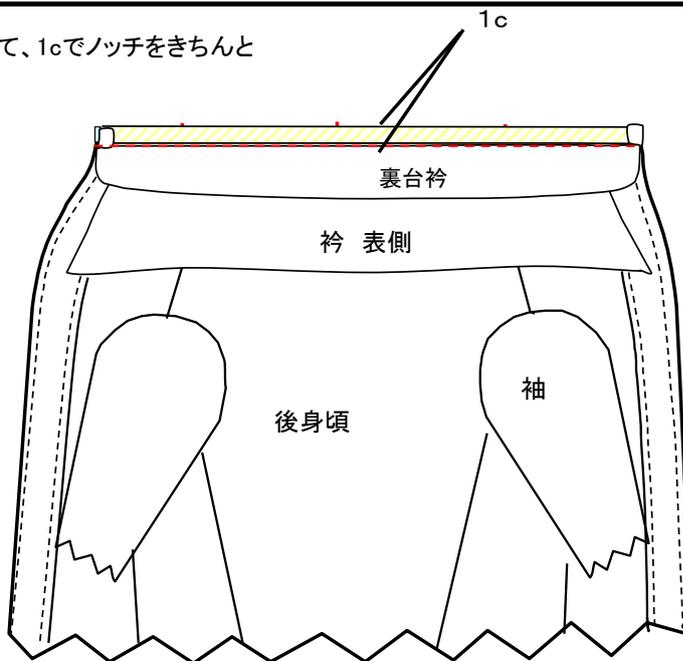
3、返し縫い
0.6cで地縫いする。



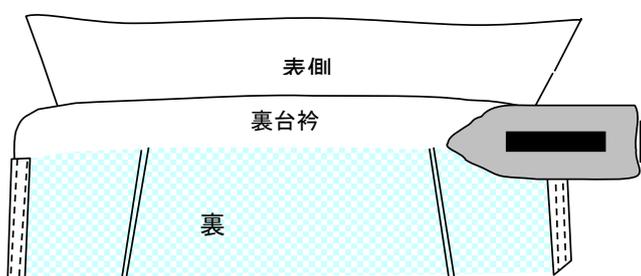
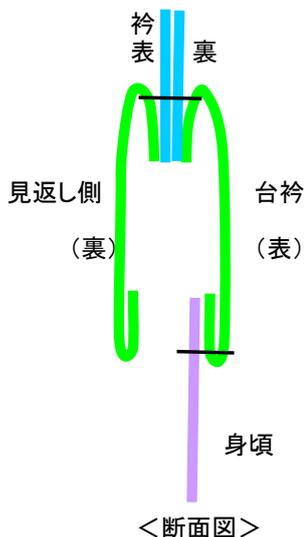
制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名	縫製 脇、袖縫い			
急所:注意事項				
<p>4、倒しアイロン 縫代を内側に倒しアイロンを掛ける、</p> 				

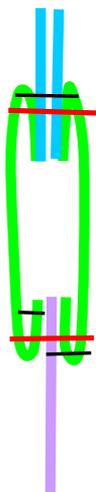
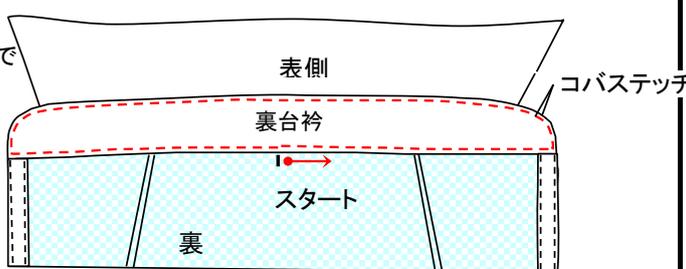
制定年月日		<h1>技術標準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程：作業名		縫製 衿付け		
急所：注意事項				

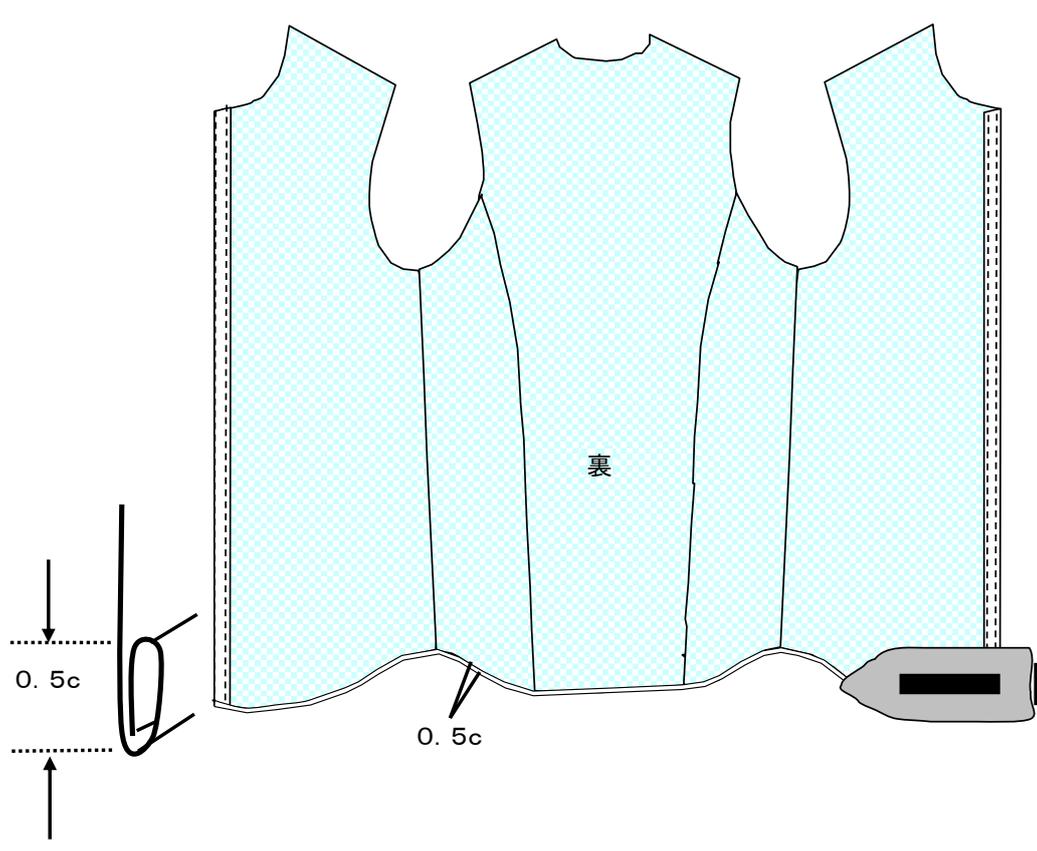
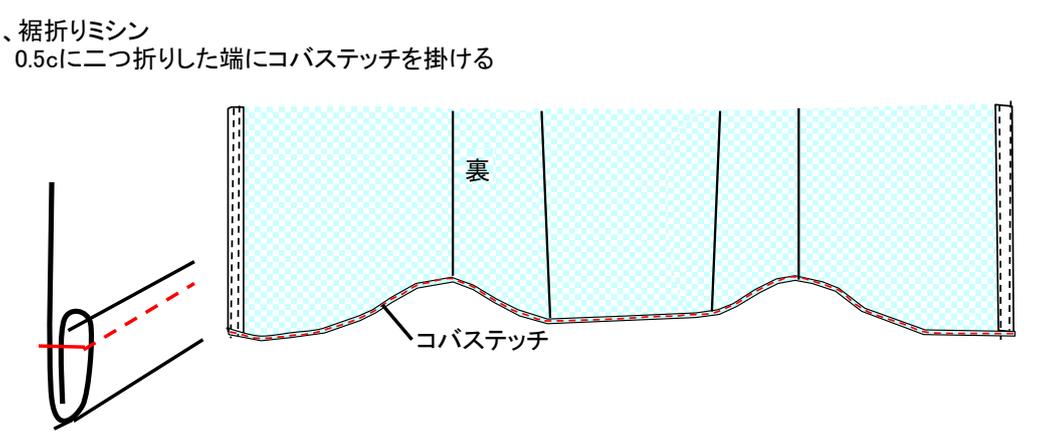
1、衿付け 身頃に衿を置いて、1cでノッチをきちんと合わせて縫う

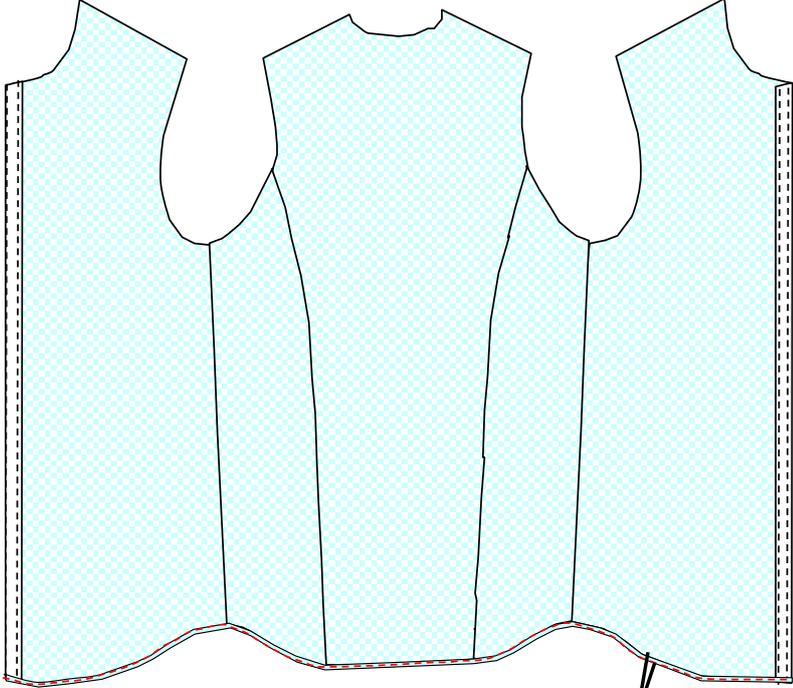
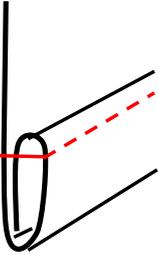


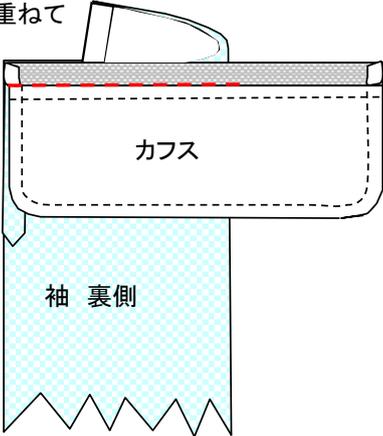
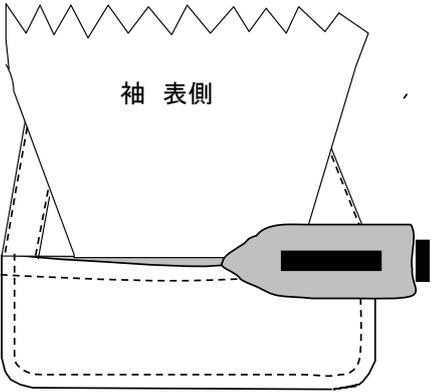
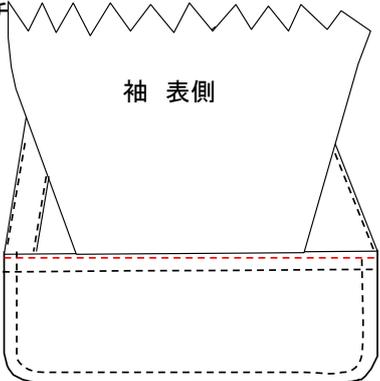
2、衿押えアイロン
折り返して、縫代を衿の中に入れてアイロンで整える



制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名		縫製 衿付け		
急所:注意事項				
<p>3、台衿端コバステッチ</p> <p>裏側中央部分からコバステッチで台衿回りを地縫いし、出発点で縫い繋ぐ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p><断面図></p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名	縫製 裾三つ巻			
急所:注意事項				
<p>1, 裾をアイロンで0.5c幅で三つ折りする。</p> 				
<p>2, 裾折リミシン 0.5cに二つ折りした端にコバステッチを掛ける</p> 				

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名		縫製 裾三つ巻(三つ巻ラッパを使用する場合)		
急所: 注意事項				
<p>1. 裾三つ巻縫い(ラッパの使用)</p> <p>0.5c用のラッパをミシンにセットする 裾を0.5cに折って ラッパに差込 縫製する。 縫い繋ぎ部分が 来る前に、 ラッパを外して、 手で、三つに折り ラッパ無しで縫う 再び、ラッパを 差し込む</p>    <p style="text-align: center;">写 21</p> <p style="text-align: center;">0.5c</p> <p style="text-align: center;">回転式三つ巻ラッパ 縫い繋ぎ部分の時に、簡単に取り外しができる タイプ</p>				

制定年月日		<h1>技 術 標 準</h1>	工程コード	
改定年月日				
工程 : 作業名		縫製 カフス付け		
急所:注意事項				
<p>1、カフス付け 袖を中裏にして、裏側カフスを右図のように重ねて1cで地縫いする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>表に戻して、縫代を中に入れて、アイロンでセットする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>カフスと袖の部分つなぎ部分にコバステッチを掛ける</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>				